

令和3年10月15日

お知らせ

京都市文化市民局
〔担当 元離宮二条城事務所〕
〔TEL 841-0096〕

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和3年度第3期
ひら たんゆう たいが おおひろま まつくじゃくず
江戸絵画を切り拓く。～探幽の大画：〈大広間〉三の間《松孔雀図》～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、年4期にわたり二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、第3期原画公開「江戸絵画を切り拓く。～探幽の大画：〈大広間〉三の間《松孔雀図》～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。今回は、二条城障壁画制作の若きリーダー、狩野探幽が描いた〈大広間〉三の間の《松孔雀図》を展示します。

是非、この機会に二条城へお越してください。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、内容が変更になる場合があります。

1 会期

令和3年10月22日（金）～12月12日（日）〔52日間〕

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分） ※二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

100円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

（1）〈大広間〉三の間障壁画《松孔雀図》（障壁画面数：21面）

（2）解説及び見所 裏面のとおり

6 お問合せ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〔〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地

〔TEL：（075）841-0096 FAX：（075）802-6181〕

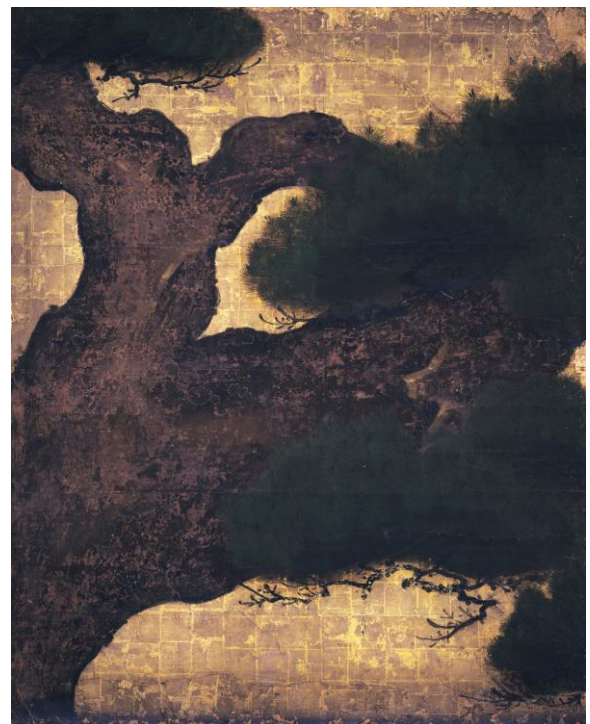
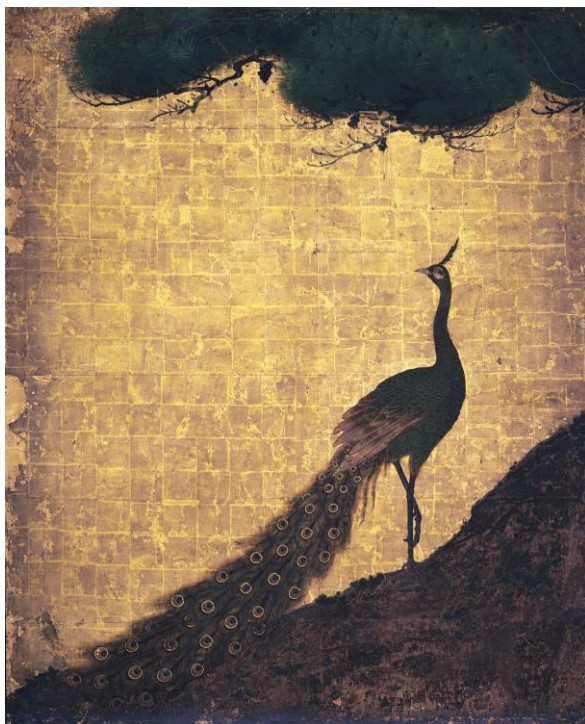
江戸絵画を切り拓く。～探幽の大画：〈大広間〉三の間《松孔雀図》～

寛永3年（1626）に完成した二の丸御殿障壁画の制作を率いたのは、当時数え年で25歳の狩野探幽（1602-74）でした。探幽は、二の丸御殿の中心に位置する〈大広間〉の一の間から三の間を担当しました。今回は、三の間から東、北、西の三面の障壁画を展示します。

探幽は、桃山の巨匠、狩野永徳（1534-90）の次男で、現存最古の《賢聖障子絵》の筆者として知られる狩野孝信（1571-1618）の長男として、京都に生まれました。幼い時から非凡な才能を発揮していたことを物語るエピソードの数々が語られるほど、父や一門の大人たちからの期待を一身に受けていた探幽は、11歳で徳川家康（1543-1616）に、13歳でその後継者の徳川秀忠（1579-1631）に拝謁し、16歳にして幕府の御用絵師に取り立てられました。

二条城の大改修に伴う障壁画制作は、寛永2年（1625）7月に着手されましたが、その当時の狩野派は、探幽の末弟である狩野安信（1614-85）が宗家に養子に入って当主を務めていました。しかし、安信は当時12、3歳の若年であったことから、探幽が、事実上の棟梁となって障壁画制作が進められたのです。

障壁画のような大画面にモチーフを大きく描く絵画を大画と呼びます。探幽の祖父永徳が活躍した時代には、巨大な樹木が画面から突き抜けるように大きく描かれ、巨木の葉や花や、木の周辺に描かれる岩や草花のモチーフが画面を埋め尽くすかのように描かれていました。探幽が、寛永3年（1626）に完成させた二の丸御殿〈大広間〉の障壁画は、天井までの壁面を利用し、長押の上まで幹や枝を伸ばす巨大な松が描かれていますが、松は完全に画面に収まり、大きく余白が取られています。ただ一羽描かれている孔雀の端正な姿にも、力強さや豪華さを標榜していた桃山の大画とは異なり、瀟洒で清新な江戸の絵画の萌芽を見て取ることができます。



〈大広間〉三の間障壁画《松孔雀図》部分